

第5回荒川水系流域委員会 議事要旨

開催日時：令和7年11月25日（火） 13：30～15：00

場 所：羽越河川国道事務所 大石ダム会議所（WEB 併用）

- 議事次第：
1. 開会
 2. 挨拶
 3. 出席者の紹介
 4. 議事
 - （1）規約改正（案）
 - （2）荒川水系河川整備計画の点検
 - （3）荒川直轄河川改修事業の再評価
 5. 閉会

○議事

（1）規約改正（案）

（資料1 荒川水系流域委員会 規約（改正案））

- 委員からの意見なし。事務局からの改正案は了承された。

（2）荒川水系河川整備計画の点検

（資料2 荒川水系河川整備計画の点検 説明資料）

（委員）

- 気候変動に伴う河川整備基本方針・河川整備計画の見直しを、できるだけ早急に対応いただきたい。

（事務局）

- 現状具体的なスケジュールは決まっていないが、近い将来、荒川水系河川整備基本方針の見直し、荒川水系河川整備計画の変更は早急に検討を進めていきたいと考えている。

（委員）

- 気候変動に伴う河川整備基本方針・河川整備計画の見直しは全国どの河川においても行うのか。

（事務局）

- そのとおりです。

（委員）

- （P15）河道掘削（貝附地区）を実施することにより、令和4年8月洪水の高田地区の浸水被害が防げるのか。

（事務局）

- 令和4年8月洪水の高田地区の浸水要因は内水であった。
- 河道掘削（貝附地区）の実施により、荒川本川の水位低下による内水被害軽減効果は期待

できると思われる。

(委員)

- (P18) R4.8 出水で河口砂州がフラッシュされたあとに再び堆積するのはどのような原理か。

(事務局)

- 主に冬季風浪による影響であると考えている。

(委員)

- (P18) 令和4年8月洪水は規模が大きかったから河口砂州がフラッシュされたのか、それより小さい規模ではフラッシュされないのか。

(事務局)

- 令和4年8月洪水に比べ規模の小さい平成23年洪水でも同様にフラッシュされたことを確認している。河口砂州のフラッシュは、流量規模、砂州の高さや形状も影響するため、モニタリングを継続して実施している。

(委員)

- R4年8月出水によって魚類に影響はあったのか。

(委員)

- 荒川の瀬や淵などの魚類の良好な生息環境が、出水により一部流出してしまった。

(事務局)

- 昨年度の荒川流域委員会でご意見をいただいた、多様な生物の生息環境の保全創出や荒川らしい河川環境の再生を目指した、荒川自然再生事業を今年度より実施している。
この事業により魚類の良好な生育環境が整えられると考えている。

(委員)

- (P26) 大石ダムの無水区間における環境改善放流の考え方はあるのか。

(委員)

- 環境改善放流は、溪流魚の産卵場などの確保のため荒川漁業協同組合から要望したものである。

(事務局)

- 動植物、魚類の生態等の影響を考慮し、大石ダムから環境改善放流を実施している。

(委員)

- 横川ダムの完成後の影響について、水質調査や生物の調査を実施してほしい。

(事務局)

- 山形県においても、環境基準の確認のための水質調査を実施している。また、水辺の国勢調査を通して横川ダム周辺についても生物の調査を実施している。

(委員)

- 事業推進にあたっては、引き続き地域住民、生物の影響を考慮してほしい。

(事務局)

- 事業を実施する際は地域住民の方の理解が必要となる。また、生物への影響についても工

事着手前に有識者の方々からの助言をもとに施工していきたいと考えている。

(委員)

- 気候変動における荒川の環境への影響について把握する必要がある。

(事務局)

- 荒川については、定期的な河川の測量や水辺の国勢調査を実施しており、経年的な変化を把握している。

(委員)

河川の整備を行うにあたっては、上流で事業を実施している間に下流が事業を行う前の状態に戻ってしなうといったことがないように、効果が持続することを意識した整備を進めていただきたい。

【荒川水系河川整備計画の点検結果】

引き続き、現計画に基づき、河川整備を実施する。

併せて、気候変動に伴う河川整備基本方針、河川整備計画の見直しに関する検討を行っていく。

(3) 荒川直轄河川改修事業の再評価

(資料3 河川事業の再評価 説明資料〔荒川直轄河川改修事業〕)

(委員)

- 貝附地区の河道掘削は鍬江沢川などの水位低減にも寄与すると思われるので引き続き事業を実施いただきたい。

(委員)

- 事業再評価において、「コスト縮減」という言葉が用いられているが、その多くは事業において付加価値を加えるなどの工夫をした結果、コストが縮減されたものである。
事業再評価で言う「コスト縮減」の意図は、単なる支出を減らすだけではなく、より賢く、より効率的に、あるいはより良い結果を生むための新しい方法やアイデアを積極的に導入することも含まれると思うので、そのような視点も大切である。

(委員)

- 川の問題は流域治水と生物多様性の回復という矛盾する問題を同時にやらなければならない、非常に難しい問題である。流域治水を進めるにあたっては、流域に住む人の理解が不可欠なので、上手に情報を流域内に発信して地域住民・関係者の理解につなげてほしい。

【荒川直轄河川改修事業の再評価の審議結果】

事業の必要性・重要性は変わっておらず、事業を継続することが妥当であると判断する。

このことを事業評価監視委員会に対してご報告をお願いしたい。

以上